

リハビリ病棟って

長妻節美¹⁾

要 旨：脳血管障害や手術後、廃用症候群の急性期治療後病状が安定し始めた、発症から2ヵ月後の状態（回復期）の集中的なリハビリテーションを行うことで、低下した能力を改善、獲得するための病棟で、2002年に開設された。一般病棟や3次医療機関からの情報をもとに、医師、リハビリスタッフと共有し入棟を決定する。平均年齢80歳超で認知機能低下患者も多いが、可能な限り抑制はせず、安全な環境確保に努めている。在棟期限は60～180日で、在宅復帰率70%以上、FIM改善30点以上、日常生活機能評価3点以上改善を目指している。毎月、リハビリテーションの評価とリハビリテーション医、担当リハビリテーションスタッフ、相談員、看護師で現状の説明後、退院後の生活を見据えた今後のリハビリテーションの計画を説明し、患者、家族の意向を確認しながら方向性を確認、決定できるよう支援している。介護保険申請、ケース会議を多職種と連携しながら進め、必要に応じて退院前訪問も行なっている。明るく楽しい職場でありたいと思っている。

キーワード：回復期；抑制回避；多職種連携

（雲南市立病院医学雑誌 2020；17(1)：印刷中

はじめに：回復期リハビリ病棟

脳血管障害や大腿骨骨折、手術後また他脊椎の手術を受けたり、廃用症候群で急性期の治療を終え病状が安定し始め発症から2ヵ月後の状態を回復期といいます。この回復期といわれる時期の集中的なリハビリテーションを行うことで低下した能力を改善、獲得するための病棟です。

一般病棟からの入棟となりますが、急性期治療を3次医療機関で終えてからリハビリテーション継続目的で転院して来られる患者さんもいます。地域連携室からの情報や、一般病棟からの情報をもとに、医師、リハビリテーションスタッフ（以下、リハスタッフ）と共有し入棟を決定しています。平均年齢は80歳を超えています。認知機能低下した方もいますが、抑制はせず、どうすれば安全に過ごしていただけるか日々カンファレンスで話し合い、共有し対応しています。

当院では平成14年（2002年）に30床で開設されました。現在ではリハビリテーション医（以下、リ

ハ医）を中心にリハスタッフ10名、看護師10名、ケアワーカー6名で365日リハビリを掲げて取り組んでいます

入棟されて、在棟期限が疾患により異なり60～180日となっています。在宅復帰率70%以上、FIM改善30点以上、日常生活機能評価3点以上改善を目指して日々行っています。

入棟後、毎月リハビリテーションの評価を行い、それぞれの患者さんに対し、1か月に1回ハビリ説明を行っています。主治医の治療方針のもとに、それぞれの患者さんの方向性を患者家族と共に検討していきます。リハ医、担当リハスタッフ、相談員、看護師、でまずリハビリの現状を説明し、退院後の生活を見据え今後のリハビリテーションの計画を説明します。患者、家族意向を確認しながら方向性確認、決定できるよう支援していきます。介護保険申請、ケース会議、多職種と連携しながら進めています。退院に向けて、自宅の環境確認が必要な場合は、患者さん御家族と共に退院前訪問も行なっています。

1) 雲南市立病院看護部看護科

著者連絡先：長妻節美 雲南市立病院看護部看護科 [〒699-1221 雲南市大東町飯田 96-1]

E-Mail：kangobu@hotaru.yoitoko.jp

電話：0854-47-7500/ FAX：0854-47-7501

（受付日：2020年3月31日、受理日：2020年3月31日）

新病棟移転後

新病棟へ移転して2年が過ぎました。ナースステーションを囲むように病室があります。個室2室、4人床7室となっています。病室との間にはデイコーナーが3カ所あり、4階からの眺めはとてもいいです。特に、中央のコーナーからは、大東の町が一望できます(図1)。一部の患者さまですが、外を眺めながら昼食を食べていただく日もあります。夏の七夕まつりの夜には、花火がきれいに見えることで、他病棟の患者さんもみにこられます。環境が整い、患者さんやご家族からもきれいになりましたねと感想をいただいています。



図1：3カ所あるデイコーナーの中央：大東の町が一望でき、外を眺めながら昼食を食べる患者もいる



図2：リハビリテーション室：明るく、病棟に隣接

リハビリ室も棟内にでき、日々リハビリテーションの進行状況が間近で見られるようになりました(図2)。廊下も他病棟より幅広くしてあり、歩行訓練も棟内できるようになりました(図3)。シャワー室の他に、浴室もこの度2室あり、シャワーも週2回と増えているところでもあります。前病棟では他病棟と協力しながら順番待ちの状態でしたが、病棟で時



図3：病棟廊下：一般病棟より幅が広く作られ、毎日歩行訓練にも利用している



図4：病棟内に2部屋設置された浴室：浴槽跨ぎ動作確認、入浴の訓練もできるようになった

間調節すれば使用できるようになりました。看護師、看護補助者と共に入浴介助を行っています。実際の訓練でも浴槽跨ぎ動作確認、入浴の訓練もできるようになりました(図4)。病室は、ベッド周囲広く、ポータブルトイレ等使用されても以前より余裕があります。ベッドも電動となって、患者さんの状況でベッド交換しなくてもよくなりました。

リハスタッフも病棟と一緒に勤務しているので、患者さんの状況を随時相談することも可能となりました。患者さんの急変時の対応に即対応でき、治療へスムーズに移行できたこともありました。

頑張っていること

・1週間に2回入浴、シャワーを行うことによって業務が多忙になりました。業務委員を中心に、協力することが必須、声を掛け合い頑張っています。移行するには、何度も話し合いをもちました。ご家族からも、(いいですね)という声もいただき、何よりも嬉しく、明日の力になります。技術多忙な中もみんな頑張っていますまだ改善していくこともあると思いますが引き続き取り組んでいきたいと思えます。

・リハビリテーション病棟の可能な限り抑制はしません。入棟後どうしたら、抑制が除去できるか話し合いをもち対応しています。

・一般状態が落ち着いて入棟されていますが、症状の変化は、リハスタッフ、看護スタッフと情報を共有

し異常の早期発見に努めています。

・患者さん、またはご家族から頂いた意見は真摯に受けとめるようにしています。「自分が言われたら、されたら、また家族の立場だったらどう感じるか」を常に話し合っています。気になったことがあれば、お互い声を掛け合える関係でありたいです。

・「しているADL」、「できるADL」からするADL」へ向上できるようカンファレンスしています。

おわりに

日々振り返り、患者さん、ご家族に寄り添えるようスタッフ一同リハビリテーションを行いながら関わらせていただいています。明るく楽しい職場でありたいと思っています。

What is the mission of the rehabilitation ward?

Setsumi Nagatsuma¹⁾

Abstract: This ward was established in 2002 to support patients recovering from disabilities due to cerebrovascular accidents, invasive surgery, or disuse syndrome. Patients have been stabilized before admission to our ward for 2 months from disease onset (convalescent phase) by intensive rehabilitation. Our staff make decisions on admitting a patient with rehabilitation physicians and rehabilitation technicians based on information from the prior high-level hospital or in-hospital wards. The mean age of the patients is over 80 years and many have dementia, thus, we maintain a safe environment and treat them without physical restraint whenever possible. We evaluate the recovery of the patients' abilities and explain to them and their families about their progress with rehabilitation physicians, rehabilitation technicians, medical social workers, and related nurses. We then present to them the future rehabilitation plan in anticipation of the return to daily life after discharge and support their decisions based on their needs and those of their families. Finally, just before discharge, we help the patients apply for long-term care insurance and hold pre-discharge stakeholder meetings, and if necessary, we visit the patients' homes to check the living environment there. We hope for a happy and enjoyable workplace.

Keywords: recovery phase; avoidance of physical restraint; cooperation with other occupations

1) Nursing department, Unnan City Hospital

Correspondence:

Setsumi Nagatsuma, Nursing department, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]

E-Mail: kangobu@hotaru.yoitoko.jp

Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501